

# I 本学の目的及び使命

本学は、社会から付託された使命と責任を果たすため、薬学領域で常に新しい教育と研究のシステムを構築しつつ、社会に対して使命感をもった人材の育成を目的とする。

この目的を達成するために、薬学が、医薬品を中心とする医療を通じて人の命を病から守り、人類の健康と福祉に貢献する学問であることを踏まえ、医薬品の創製、製造及び適正使用に関わる学理を研究・教授する。更に、本学の建学精神である強く・正しく・明朗に をモットーに、高邁な人格形成を通して、豊かな人間性と倫理観をもつ薬剤師並びに薬学研究者の養成に努める。

# II 沿革

岐阜の地は、肥沃な濃尾平野の北部にある。鶉飼は岐阜を象徴し、清冽な長良川で行われ、そびゆる金華山は、戦国時代の英雄織田信長が全国制覇に青春の情熱をかけた居城である。本学は、この金華山の北方に位置している。

本学の歴史は、医薬、化学の知識を広め併せて県内の資源を開発し、国民保健衛生の普及向上と化学工業の発展に寄与するため、昭和6年、時の市長松尾国松翁の発意により市議会において設立の議決を得たときに始まる。昭和7年4月、岐阜薬科大学の前身である岐阜薬学専門学校が、市立として全国に先駆けて九重町3丁目に創立された。以来順調な発展をたどり、昭和24年3月学制改革に伴い岐阜薬科大学として新しく発足し、昭和28年4月には大学院（修士課程）を、さらに昭和40年4月には博士課程を設置した。

そして、めざましい科学の進運に即応して研究、教育の発展を期するため、昭和39年7月規模を倍増した近代的な校舎の新築に着工し、昭和40年9月には三田洞に移転し、名実共に薬学教育の殿堂となった。昭和52年8月乗鞍山麓子の原高原の一部（33,912 平方米）を篤志家から寄附を受け寒冷地系薬草栽培の研究のため子ノ原川島記念演習園を開設し、大学の附属薬草園と共に多くの薬草を栽培し教育研究に活用している。昭和57年9月、本学創立50周年を記念して教育研究総合センターを建設し、昭和58年度から大学院に医療薬学コースを開設した。学生の心身の健康と体力の向上の場として、平成元年3月トレーニングルームを併設した鳳川会館（体育館）を建設し、さらに、平成2年10月完成した生物薬学研究所は、薬学教育の将来を見通し、バイオテクノロジーに係る基礎研究並びに応用研究を推進し、あわせて本学学生の教育はもちろん企業等からの研究生受入れを行い先端技術産業、医・薬関連企業等の試験、研究、開発部門等において常にリーダーとして活躍しうる人材育成を目指してきた。また、医薬分業が進むなか、地域医療に貢献するとともに、質の高い薬剤師の養成を目指した学生の実務研修の場並びにリカレント教育の場として利用するため、平成10年9月に附属薬局を開局し、平成16年度には移転、新築した。

国際交流に関しては、昭和57年10月中国薬科大学と姉妹校の盟約が結ばれてから、浙江大学薬学院（中国）、フィレンツェ大学（イタリア）、シンシナティ大学（アメリカ）、フロリダ大学（アメリカ）、モナシェ大学（オーストラリア）、濱陽薬科大学（中国）、サラマンカ大学（スペイン）、シラパコーン大学（タイ）、カンピーナス大学（ブラジル）など多くの大学と学術交流を行い国際化の強化を図ってきた。平成23年度からは中国の姉妹校との短期学生交流、さらに25年度以降毎年、シンシナティ大学、

フロリダ大学等への教員、学生の訪問などを実施し、新しい国際交流・薬学教育への展開を推進している。

一方、我が国の薬学教育においては、薬剤師教育の充実を目的に、平成18年から6年制教育が導入された。これに伴い、本学では、従来の厚生薬学科、製造薬学科を、高度専門職業人としての薬剤師養成教育の「薬学科」と、創薬科学研究を中心とした薬学研究者養成教育の「薬科学科」の2学科に改組した。この薬学教育の6年制への移行や、医療技術の高度化など薬学教育・研究をめぐる環境の変化に対応するため、平成19年度より本部学舎の建設に着工し、これを平成21年10月に完成した。本部学舎には講義室や最新研究設備を備え、学部4～6回生、大学院生の教育及び研究が行われている。なお、大学院も学部の改組に対応すべく平成22年度より薬科学専攻が設置され、平成23年度には修士（薬科学）の初の修了生を輩出した。平成24年度より薬科学専攻博士後期課程、薬学専攻博士課程も設置され、多くの大学院生が研究を行っている。本部学舎7階の一部および8階は岐阜大学との連携スペースとして、連合大学院（岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科）および両学を中心として運営する岐阜健康長寿・創薬推進機構が使用し、連携推進を図っている。さらに、本学の連携大学院としては、地域連携を主眼に置いた岐阜県保健環境研究所に加え、薬系大学としては全国で初めて医薬品医療機器総合機構との協定を交わし、平成23年度より教育・研究の連携を開始した。平成25年以降、医療・製薬企業による寄附講座「化粧品健康学」、「地域医療薬学」を順次開設し、新薬開発を成功させるための研究や地域貢献の推進を目的とした研究を薬学教育の中に位置づけている。さらに、平成30年には寄附講座「バイオメディカルリサーチ」「在宅チーム医療薬学講座」が開設され、平成31年には「先進製薬プロセス工学寄附講座」、令和4年度には「先端医療薬局学講座」、「ナノファイバー創剤学講座」が開設された。

薬学教育の4年制から6年制への移行に伴う経過措置として定められていた薬剤師国家試験受験資格の特例措置の廃止を前に、また、医療や薬学を取り巻く社会情勢の変化に対応すべく、平成29年度入学生からは、薬科学科の学生募集を停止し、6年制薬学科の学生募集のみとした。これにより、卒業後は全ての学生が薬剤師の国家試験受験資格を得ることになる。その上で、本学が有する長い歴史と伝統に立脚した研究者の育成という目標を堅持するため、薬学科の中に「医療薬学コース」と「創薬育薬コース」を設置した。

卒業生及び修了生は創立以来今日までに13,000余名にのぼる。学界、病院・薬局、薬業を中心とする産業界および官公庁と卒業・修了生の活躍分野は多岐に亘り、各界から本学の真価は大いに認められ、今日に至っている。